

循環器内科

科長のメッセージ

循環器内科では急性期の対応がクローズアップされますが、実際には、ひとりの患者さんと長い間関わることも多く、身体全体や生活をも把握する必要があります。循環器内科のもう一つの醍醐味であると思います。



科長

梶波 康二 (かじなみ こうじ) 教授

- 専門分野
循環器内科学、代謝学（動脈硬化学）、人類遺伝学
- 得意な分野
動脈硬化の原因について分析を行的確に治療方針を決める。遺伝子を分析することで病気になる前段階から対応が考えられる。
- 職歴
金沢大学助手（1994）、金沢大学講師（1999）、金沢医科大学講師（1999）、金沢医科大学助教授（2001）、金沢医科大学教授（2004）
- 主な所属学会
日本内科学会、日本循環器学会、日本動脈硬化学会、日本生化学会、American Heart Association
- 専門医資格等
日本内科学会認定医・総合内科専門医・評議員、日本循環器学会認定循環器専門医、日本動脈硬化学会評議員、日本糖尿病学会認定医、日本心臓病学会上級会員FJCC・評議員、日本老年病学会認定医・代議員、日本臨床生理学会評議員
- 研究課題
冠動脈硬化症に関する研究（Study for coronary atherosclerosis）
- 研究の概要
遺伝子を分析し、動脈硬化との関連を追究し、治療にどう生かせるかを研究している。

概要

最先端の医療機器や技術を導入し、心血管病に対するさまざまな治療を行っている。例えば、狭心症や心筋梗塞などに対しては最新の薬物溶出性ステントやロータブレードを使用して冠動脈の拡張や再狭窄予防を行い、心房細動をはじめとする難治性頻脈性不整脈に対してはカテーテル焼灼術や植え込み型除細動器を積極的に使用。重症心不全の治療として両心室ペーシングによる再同期療法も行う。また、当院ハートセンターは高度の医療機器を備え、急性心筋梗塞、不安定狭心症、重症心不全、致死性不整脈などの患者さまに内科・外科の垣根を取り払った体制で集中治療を行ない、早期に退院できるよう心がけている。スタッフは緊急事態に適切な医療を提供できるように、24時間体制で診療に臨む。

特徴・特色

外来・入院とも北陸屈指の症例数を有し、診療レベルは全国で高い評価を受けている。特に、プライマリケアから高度な専門的診療までを幅広く経験できることが大きな特徴である。

指導担当医



北山 道彦 (きたやま みちひこ)

教授

- 専門分野
虚血性心疾患、冠動脈インターベンション
- 学会活動
日本内科学会認定医
日本心血管インターベンション治療学会認定
専門医
- 得意な分野
循環器疾患



河合 康幸 (かわい やすゆき)

准教授

- 専門分野
虚血性心疾患、冠動脈インターベンション
- 学会活動
日本内科学会認定医、日本循環器学会認定専
門医、日本心血管インターベンション治療学
会認定医
- 得意な分野
循環器疾患



赤尾 浩慶 (あかお ひろのぶ)

講師

- 専門分野
虚血性心疾患、冠動脈インターベンション
- 学会活動
日本内科学会認定医、日本循環器学会認定専
門医、日本心血管インターベンション治療学
会認定専門医
- 得意な分野
循環器疾患



藤岡 央 (ふじおか なかあき)

講師

- 専門分野
不整脈、カテーテルアブレーション、心不全
- 学会活動
日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医
- 得意な分野
循環器疾患



石田 良子 (いしだりょうこ)

助教

- 専門分野
循環器一般、心臓リハビリテーション
- 学会活動
日本内科学会認定医、日本循環器学会認定専
門医
- 得意な分野
循環器疾患



本山 敦士 (もとやま あつし)

助教

- 専門分野
虚血性心疾患、冠動脈インターベンション
- 学会活動
日本内科学会認定医、日本循環器学会認定専
門医、日本心血管インターベンション治療学
会認定医
- 得意な分野
循環器疾患

プログラムの目的

循環器系の疾患は臨床像と疾患の特性より、急性疾患と慢性疾患に大別される。急性疾患では、しばしば生命を左右する状態を経験し、急性期のACLSが行われたのち、疾患に対する根本的治療が要求される。臨床像から緊急性を適切に判断し、迅速な検査による診断を行い、最適な治療方法を選択し必要な手技を行うことが重要である。これら急性期診断から治療までの一連の事項について習得する事を目的とする。一方、慢性疾患では、生活習慣病などに代表されるように、長期予後を大きく左右する疾患が多く、これらの管理方法および長期的転帰について理解し、治療法および長期管理方法について習得することを目的とする。

循環器内科は、上記のごとく急性疾患から慢性疾患まで臨床像は幅が広く、種々の対応が要求される。その一方でカテーテル治療やペースメーカー植え込みなど「外科的」手技習得も可能である。

期間割（後期臨床研修開始後）

- ①循環器内科指導医による基礎知識の講義。
- ②循環器内科主要疾患の理解とその診断、治療手技。

教育関連施設

病院名
日本内科学会認定内科専門医教育病院
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本胸部疾患学会認定医制度認定施設（内科・外科系）
日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設



心臓カテーテル検査室において

研修内容と到達目標

第1年次

- ①虚血性心疾患班、不整脈班、心筋疾患／心不全班、動脈硬化／高血圧症班の4グループを一定期間ずつローテーションし、各班における治療方法の概要（とくに主要疾患の理解とその診断、治療手技など）を重点的に習得する。
- ②各班ごとの指導医による基礎知識の講義等を通して、
 - i) 心電図の基本的な理解
 - ii) 心エコー検査の基本操作の習得(独自の宿泊研修など)
- ③救急診療に必要なBLSやACLSの指導医も取得できる。

第2年次

- ①診療グループの1構成員となり、各疾患に対する初期診療の開始およびチーム医療の初動、診療方針の立案を行う。
- ②指導医のもとで診断を目的とした心臓カテーテル検査を一人でこなすことができる。

第3年次

高度先端医療を含めた治療に携わり、指導医のもと治療が完結できる事を目的とする。また、初期臨床研修医に対する指導力も要求される。

プログラム修了後のコース

大学構成員への道。(助教、社会人大学院生など)
国内関連施設（群馬県立心臓血管センター、国立循環器病センターなど）での専門知識手技習得のための派遣。
心臓外科への研修派遣など。

取得できる認定医、専門医（必要な期間）資格と、その取得にかかわる概要

取得可能な認定医・専門医および指導医

日本内科学会認定医	3年以上
日本内科学会専門医	6年以上
日本循環器学会循環器専門医	6年以上
日本心血管インターベンション治療学会認定医	3年以上
日本心血管インターベンション治療学会専門医	6年以上
日本高血圧学会専門医	5年以上
老年医学会専門医	6年以上
プライマリーケア学会認定医	6年以上
リハビリテーション科専門医認定	5年以上
総合健診専門医	5年以上

大学院進学と研究内容、概要、学位取得後の道すじ

虚血性心疾患班
不整脈班
心筋疾患／心不全班
動脈硬化／高血圧症班

上記4グループにおいて研究活動を行っている。各グループに所属し、研究活動の個別指導により、学位取得をめざす。最近の学位論文の研究課題を下記に示した。学位取得後は、大学構成員をはじめ派遣病院勤務など、個々の希望にそった選択が可能である。

- ・特発性左室収縮機能障害患者におけるアミノ酸代謝異常に関する臨床的検討
- ・冠動脈疾患における血漿ホモシステイン及びB群ビタミン、葉酸に関する臨床的検討
- ・閉経後女性における動脈硬化と骨密度との関係
- ・男性冠疾患患者における性ホルモンの臨床的検討
- ・経皮的冠動脈インターベンションにおける冠動脈損傷と炎症反応の定量的検討
- ・¹¹C-Hydroxyephedrine (¹¹C-HED)を用いた陽電子放射断層撮影
- ・心房粗動時の冠状静脈洞入口部周囲における電氣的興奮の旋回様式についてのEntrainment Mapping法による検討



経食道エコー

他科研修、他教室での研究、留学の可能性

前述のごとく、国内他施設での研修派遣を行っており、更に希望者は海外留学も可能である。

また女性医師のキャリアサポート体制を備えており、出産・育児との両立も可能である。

活躍する先輩達



若狭 稔 (わかさ みのる)

循環器内科 助教

- 代表所属学会
日本循環器学会
- 得意な分野
心筋症、心不全
- コメント

心筋症のスペシャリストを目指しています。我が循環器では自分が興味を持ったことにはお金も時間も人も惜しみません。

週間スケジュール

	午 前	午 後
月	心臓カテーテル検査	抄読会/医局会
火		心臓カテーテル検査 シネアンジオ検討会
水	教授回診・心臓カテーテル検査 症例検討会	心臓カテーテル検査 不整脈検討会
木		
金		心臓カテーテル検査
土	モーニングカンファレンス	

研修中の日程は、各治療班にて時間割はさまざまである。上記の定例会をのぞいては、臨床診療事項にもとづく診療活動が最優先される。